

調査A <日本私立看護系大学協会>

1. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
北海道・東北	基礎看護学 臨地実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨地実習と学内・遠隔実習を併用した。
北海道・東北	基礎看護学 臨地実習Ⅰ-1	基礎看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	施設での実習を中止し、学内・遠隔実習を実施した
北海道・東北	基礎看護学 臨地実習Ⅰ-2	基礎看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	施設での実習を中止し、学内・遠隔実習を実施した
北海道・東北	早期体験実習	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	学内実習は一部
北海道・東北	基礎看護学実習	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	学内実習は一部
北海道・東北	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	臨地の日数が減った分、学内に
関東	日常生活 援助実習	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	全体の半分を臨地、残りを学内実習
関東	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	9月実施予定を12月に変更 実習施設の変更はない予定であるが、クラスター発生の病院より中止の可能性もあると言われている。
関東	基礎看護学実習	基礎看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	一部変更 学生の居住地により制限あり
関東	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学		*	*	*	*	*	2021年1月実施。今後実習病院と調整するため現時点では見通し立たず
関東	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学		*	*	*	*	*	2021年2月実施。今後実習病院と調整するため現時点では見通し立たず
関東	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	臨地受け入れ困難、臨地5日間のみ
関東	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	あり	なし	あり	2週のうち1週は待機期間として遠隔で
関東	基礎看護学実習	基礎看護学	変更予定	なし	あり	なし	なし	なし	付属学校の実習時期変更に伴う実習の後ろ倒し
関東	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学		*	*	*	*	*	現在、検討中である。
関東	日常生活援助 展開実習	基礎看護学	変更なし	*	*	*	*	*	今後の感染状況により、変更の可能性あり。
関東	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	全日程学内
関東	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	1週間臨地実習・1週間学内 30人に分け×3W
関東	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	学内実習日の増加
関東	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地の日数を短縮し一部学内実習とした
関東	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地の日数を短縮し一部学内実習とした
関東	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	実習時期を延期したため、実習施設との調整はこれからである
関東	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	今後実習施設との調整を進める
関東	基礎看護学実習Ⅰ-2	基礎看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	2021年2月に実施予定のため詳細未定

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
関東	麟祥実践の基礎	基礎看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	春学期科目であったが、秋学期へ変更した
関東	基礎看護援助実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	なし	なし	なし	あり	あり	臨地実習のうちの1日を学内実習へ変更
関東	基礎看護援助実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	なし	なし	なし	あり	なし	2月に開講、後半グループ（2グループに分かれて履修）の臨地最終日1日を中止し、以後の学内実習を含め自宅学修へ変更
中部	生活援助臨地実習	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	あり	2020年9月開講予定だったが2021年3月に延期
中部	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	あり	臨地の時間数を減らして予定通り実施予定。減らした分は遠隔実習で対応。
中部	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	なし	なし	なし	あり	あり	全面的に遠隔実習への切り替え。
中部	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	12月に短縮で実習予定
中部	基礎看護技術実習	基礎看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	8/31～9/4で実習終了。 8/31、9/1で臨地、9/2～9/4学内又は自宅（オンライン）で教材をもとに実習。
中部	看護展開論実習	基礎看護学	変更なし	*	*	*	*	*	3/5実習オリエンテーション、3/8-12臨地、3/15-16学内、3/17実習発表の予定。
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	なし	なし	あり	あり	なし	一部の学生が学内実習
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	なし	なし	あり	あり	なし	一部の学生が学内実習
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更なし	*	*	*	*	*	今後変更の可能性有り
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	2月の実習のため、施設状況による
関西・近畿	基盤実践看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	学内実習を基本にし、covid-19発生や気象警報等で休講の場合はon-lineに変更
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	あり	臨地での実習日数を短縮した実習を遠隔実習に変更
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	あり	臨地での実習日数を短縮した実習を遠隔実習に変更
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	なし	なし	あり	なし	なし	現時点で回答
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり					学内実習も実施
関西・近畿	基礎体験実習	基礎看護学	変更なし	*	*	*	*	*	2月実習予定であるため実習できるか不明
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	臨地実習は中止となり、学内実習に変更
関西・近畿	コミュニティ看護実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	あり	隣地実習時間短縮に伴い、遠隔実習を一部導入
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更なし	*	*	*	*	*	変更の可能性あり
関西・近畿	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更なし	*	*	*	*	*	変更の可能性あり

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
関西・近畿	療養生活支援基礎実習	基礎看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	12月ごろ最終決定する
中国・四国	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学		*	*	*	*	*	令和3年3月に実施予定であるため、状況を見て今後検討
中国・四国	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	なし	なし	なし	なし	なし	1年生2月末開講の未定
九州・沖縄	基礎看護学実習	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	8月学内実習・翌2月は検討中
九州・沖縄	臨床基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	2020年6月開講予定であったが、10月開講に変更。
九州・沖縄	臨床基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学	変更なし	*	*	*	*	*	今後の感染状況により施設と検討。
九州・沖縄	基礎看護学実習Ⅱ：看護過程実	基礎看護学	変更なし	*	*	*	*	*	2月のことであり、全く状況が予想ができない。大幅変更の可能性あり
九州・沖縄	基礎看護学Ⅱ	基礎看護学	変更予定	なし	なし	あり	なし	なし	実習施設1か所から受け入れ拒否
九州・沖縄	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	遠隔実習については施設と協議中
九州・沖縄	基礎看護学実習	基礎看護学	変更予定	なし	なし	なし	あり	あり	一部の実習施設は臨地で実習
九州・沖縄	看護過程論実習	基礎看護学	変更予定	なし	なし	なし	あり	あり	一部の実習施設は臨地で実習
九州・沖縄	自己開発学実習	基礎看護学	変更予定	なし	なし	なし	なし	なし	2021年度開講予定
九州・沖縄	基礎看護学実習1	基礎看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	実習延期中
北海道・東北	成人看護学臨地実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	実習の日数・時間を変更して臨地実習を開始したが、途中より、遠隔実習に変更した。
北海道・東北	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	臨地の日数が減った分、学内に
関東	成人期継続療養看護実習	成人看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	全部を学内実習に変更したため実習施設変更とした
関東	成人看護学実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨地実習受け入れ施設無く、臨地0日
関東	成人看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	臨地実習5日間(成人Ⅲとどちらか)
関東	成人看護学実習Ⅲ	成人看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	臨地実習5日間(成人Ⅱとどちらか)
関東	健康問題別実習	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	一部学内実習に切り替えた
関東	成人看護学実習Ⅰ(慢性期)	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	残り1/3の学生です。
関東	成人看護学実習Ⅱ(急性期)	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	12月からなので現時点の状況です。
関東	成人看護学実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部9/28より臨地での実習を再開した。
関東	成人看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部9/28より臨地での実習を再開した。
関東	成人看護学実習Ⅲ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部9/28より臨地での実習を再開した。

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
関東	成人看護学実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地50%
関東	成人看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地50%
関東	成人看護急性期実習	成人看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	実習前PCR検査で陽性の学生が出たグループは学内(遠隔)実習へ変更
関東	成人看護慢性期実習	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨地実習の日数短縮化のため、学内（遠隔）実習の日を組み入れた。教員の体調不良により、臨地実習の日数がさらに減ったグループがある。
関東	成人看護学基盤実習	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	臨地では実習行わず
関東	臨床看護学実習	成人看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	臨地実習なし、遠隔授業形式を主に対面形式を併用
関東	成人・高齢者看護学実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	1日に臨地で実習できる学生人数の制限があり、学内実習と組み合わせて実施。
関東	成人・高齢者看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更なし	*	*	*	*	*	実習病棟の変更があった
中部	療養生活支援実習	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	臨床で実施できる看護ケアに対して、患者との接触の観点から厳しい制限がかかった。臨地実習の短縮化に伴い、学内実習・遠隔実習の日程が増加した。
中部	治療回復過程実習	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	臨床で実施できる看護ケアに対して、患者との接触の観点から厳しい制限がかかった。臨地実習の短縮化に伴い、学内実習・遠隔実習の日程が増加した。
中部	領域別実習	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	全ての実習科目で、臨地での実習時間を、一部、学内や遠隔に移行させて行っています
中部	成人看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり			あり		一部の実習施設の実習受け入れが不可となった。
中部	成人看護実習Ⅰ(急性期看護実習) 成人看護実習Ⅱ(慢性期看護実習)	成人看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	Zoomの活用
中部	成人看護学実習(急性・慢性期)	成人看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	補完実習シャドウ3日間
中部	成人看護学実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	臨地での実習短縮分は、学内での演習で補完
中部	成人看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	臨地での実習短縮分は、学内での演習で補完
中部	療養生活支援看護	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	在宅看護実習を含む。
関西・近畿	急性期看護学実習	成人看護学	変更なし	*	*	*	*	*	実習施設の感染状況により変更の場合あり
関西・近畿	慢性期看護学実習	成人看護学	変更なし	*	*	*	*	*	実習施設の感染状況により変更の場合あり
関西・近畿	成人看護学実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	病棟内立ち入り禁止であり、病棟外で指導を受けている
関西・近畿	成人看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	病棟内立ち入り禁止であり、病棟外で指導を受けている

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が”変更予定”の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
関西・近畿	成人看護学実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	学内実習を基本にし、covid-19発生や気象警報等で休講の場合はon-lineに変更
関西・近畿	成人看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	学内実習を基本にし、covid-19発生や気象警報等で休講の場合はon-lineに変更
関西・近畿	急性期看護学実習	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	臨地側より受入れ期間の短縮を要望された。学内と遠隔実習の変更は期間の一部のみ。
関西・近畿	慢性期看護学実習	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨地側より受入れ期間の短縮を要望された。学内と遠隔実習の変更は期間の一部のみ。
関西・近畿	療養支援実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	複数施設を利用しており施設により対応が違っている
関西・近畿	療養支援実習Ⅲ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	複数施設を利用しており施設により対応が違っている
関西・近畿	成人看護学実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	なし	あり	なし	あり	臨地での実習日数を短縮した実習を遠隔実習に変更 一部の实習施設から実習困難とのことで施設を変更して対応
関西・近畿	成人看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	なし	あり	なし	あり	臨地での実習日数を短縮した実習を遠隔実習に変更 一部の实習施設から実習困難とのことで施設を変更して対応
関西・近畿	成人看護学実習	成人看護学	変更予定	あり					学内実習も実施
関西・近畿	急性期看護学実習	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	変更して実施。学内・遠隔は期間の一部
関西・近畿	慢性期・回復期看護学実習	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	変更して実施。学内・遠隔は期間の一部
中国・四国	成人看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり		3年次領域実習
中国・四国	成人看護学実習Ⅲ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり		3年次領域実習
中国・四国	成人看護学実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	2年生
中国・四国	成人・老年看護学実習Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	状況によって遠隔実習への変更が増える可能性もある
中国・四国	成人・老年看護学実習Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	状況によって遠隔実習への変更が増える可能性もある
中国・四国	成人・老年看護学実習Ⅲ	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	状況によって遠隔実習への変更が増える可能性もある
中国・四国	成人看護学実習A	成人看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	ここまでの実習で一部施設で実習時間短縮の要請があった
中国・四国	成人看護学実習B	成人看護学	変更なし	*	*	*	*	*	ここまでの実習で1施設が学内実習となった
九州・沖縄	成人看護学実習	成人看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	9月から臨地開始
九州・沖縄	臨床看護学実習Ⅰ（急性期）	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	2020年10月開講予定であったが、11月開講に変更。
九州・沖縄	臨床看護学実習Ⅱ（慢性期）	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	2020年10月開講予定であったが、11月開講に変更。
九州・沖縄	レベルⅣ実習	成人看護学	変更予定				あり	あり	学内対面実習とオンライン実習(専門領域正式にはクリティカルケア実習)

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
九州・沖縄	成人看護学Ⅰ	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	終了時期を3月から12月に変更、実習時間を3週から2週に短縮
九州・沖縄	成人看護学Ⅱ	成人看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	終了時期を3月から12月に変更、実習時間を3週から2週に短縮
九州・沖縄	急性期看護学実習	成人看護学	変更なし	*	*	*	*	*	すべての実習を臨地で可能
九州・沖縄	慢性期看護学実習	成人看護学	変更予定	なし	なし	なし	あり	あり	一部の实習施設は臨地で実習
北海道・東北	老年看護学臨地実習Ⅱ	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	実習の日数・時間を変更して臨地実習を開始したが、途中より、遠隔実習に変更した。
北海道・東北	老年看護学臨地実習Ⅰ	老年看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	施設での実習を中止し、学内・遠隔実習を実施した
北海道・東北	老年看護学実習Ⅰ	老年看護学	変更予定				あり		介護施設での実習
北海道・東北	高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ	老年看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	臨地の日数が減った分、学内に
北海道・東北	老年看護学実習	老年看護学	変更予定			あり			4施設中1施設のみ変更
関東	生涯発達看護学実習	老年看護学	変更予定	なし	なし	なし	なし	あり	オリエンテーション及び一部のフィールドワークをzoomを用いて遠隔とした
関東	老年看護学実習Ⅰ	老年看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	定められた実習期間内に臨地での実習と遠隔での実習を組み合わせる実施。適宜遠隔に切り替えての実施も念頭に置いている。
関東	老年看護学実習Ⅱ	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨地実習受け入れ施設無く、臨地0日
関東	健康問題別実習	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	一部学内実習に切り替えた
関東	老年看護学実習Ⅱ	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部9/28より臨地での実習を再開した。
関東	高齢者看護学Ⅰ	老年看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地50%
関東	高齢者看護学Ⅱ	老年看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地50%
関東	高齢者看護学実習Ⅰ	老年看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地の日数を短縮し一部学内実習とした
関東	高齢者看護学実習Ⅱ	老年看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地の日数を短縮し一部学内実習とした
関東	老年看護学実習	老年看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	すべて学内実習に切り替え、遠隔実習と対面実習で対応
関東	老年看護学実習Ⅱ	老年看護学	変更予定	あり		なし	あり	あり	すべて学内に変更
関東	老年看護学実習Ⅲ	老年看護学	変更予定	あり		なし	あり	あり	すべて学内に変更
関東	成人・高齢者看護学実習Ⅲ	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	一部実習可能な施設もあが、全て、学内実習とした。
中部	老年看護学実習	老年看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	高齢者施設での実習は全面的に中止となり、学内での実習となる。
中部	老年看護学実習Ⅱ	老年看護学	変更予定	あり			あり		一部の实習施設の実習受け入れが不可となった。

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
中部	高齢者看護実習II(高齢者援助実)	老年看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	臨地実習日数の削減、学内演習日の追加
中部	老年看護学実習(医療・保健・福祉施設)	老年看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	1/4の学生のみ短縮実習
中部	高齢者看護学実習I	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	臨地での実習短縮分は、学内での演習で補完
関西・近畿	老年看護学実習	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	臨地の受け入れが全面停止
関西・近畿	老年看護学実習	老年看護学	変更なし	*	*	*	*	*	実習施設の感染状況により変更の場合あり
関西・近畿	リハビリテーション看護学実習	老年看護学	変更予定	あり			あり		実習施設側の要望により、実習日の短縮し、不足分は学内実習に変更
関西・近畿	老年看護学実習	老年看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	実習時間を短くして実施
関西・近畿	老年看護学実践実習I	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	複数の実習施設のうち1施設のみ左記のような対応になりました
関西・近畿	老年看護学実習II	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	学内実習を基本にし、covid-19発生や気象警報等で休講の場合はon-lineに変更
関西・近畿	老年看護学実習	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨地側より受入れ期間の短縮を要望された。学内と遠隔実習の変更は期間の一部のみ。
関西・近畿	老年看護学実習I	老年看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	あり	臨地での実習日数を短縮した実習を遠隔実習に変更 実習時期を早めて実施
関西・近畿	老年看護学実習1	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	高齢者施設から断られた
関西・近畿	老年看護学実習II	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	1施設から断られ17名学内実習へ変更
関西・近畿	老年看護学実習	老年看護学	変更予定	あり					学内実習も実施
関西・近畿	老年看護学実習II	老年看護学	変更なし	*	*	*	*	*	変更の可能性あり
関西・近畿	老年看護学実習	老年看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	変更して実施。学内・遠隔は期間の一部。
中国・四国	老年看護学実習I	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり		3年次領域実習
中国・四国	老年看護学実習II	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり		3年次領域実習
中国・四国	成人・老年看護学実習IV	老年看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	状況によって遠隔実習への変更が増える可能性もある
中国・四国	フィールド体験実習	老年看護学	変更なし	*	*	*	*	*	12月実施のためこれから調整
九州・沖縄	老年看護学実習	老年看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	学内実習が多い
九州・沖縄	高齢者生活支援実習	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	実習施設それぞれの意向に沿って学内演習を実施している。
九州・沖縄	老年看護学実習	老年看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	2020年10月開講予定であったが、11月開講に変更。
九州・沖縄	レベルIV実習	老年看護学	変更予定				あり	あり	学内対面実習とオンライン実習

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
九州・沖縄	老年看護学実習	老年看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	臨地での実習日数が減り、学内実習と遠隔実習に振り替えた
九州・沖縄	高齢者看護学実習	老年看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	すべての臨地実習は不可
北海道・東北	母子看護学臨地実習Ⅰ	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	実習の日数・時間を変更して臨地実習を開始したが、途中より、遠隔実習に変更した。
北海道・東北	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	臨地の日数が減った分、学内に
関東	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	全て臨地での実習が不可となった
関東	母性看護学	母性看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	学内のみ
関東	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	現時点では実習時間を短縮し、その他の変更はありませんが、今後の感染によっては、遠隔実習をおこなう準備はしています
関東	健康問題別実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	一部学内実習に切り替えた
関東	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部9/28より臨地での実習を再開した。
関東	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地2日
関東	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	1日に臨地で実習できる学生人数の制限があり、学内実習と組み合わせて実施。
中部	母性看護学臨地実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	臨地の短縮による不足日数を学内実習で行う
中部	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	1実習施設が受け入れを断ってこられたため、一部オンライン学習に切り替えた。また、最終カンファレンスもZoomで実施することに変更した。
中部	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	学内実習への変更は一部
関西・近畿	母性看護学実習	母性看護学	変更なし	*	*	*	*	*	実習施設の感染状況により変更の場合あり
関西・近畿	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	11月から1施設受け入れ有
関西・近畿	母子看護学実習Ⅱ	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	母性・小児との合同実習
関西・近畿	母子看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	臨地側より受入れ期間の短縮を要望された。学内と遠隔実習の変更は期間の一部のみ。
関西・近畿	母子支援実習Ⅱ	母性看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	複数施設を利用しており施設により対応が違っている
関西・近畿	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	あり	臨地での実習日数を短縮した実習を遠隔実習に変更
関西・近畿	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	1施設から断られた、他は臨地実習
関西・近畿	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり					学内実習も実施
関西・近畿	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	4施設の内2施設実習不可、1施設で多くの学生実習

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
関西・近畿	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	実習開始と終了時間を変更
中国・四国	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり		3年次領域実習
中国・四国	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	3年次領域実習
中国・四国	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	状況によって遠隔実習への変更が増える可能性もある
中国・四国	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	あり	あり	なし	なし	2週間のうち1週間のみ臨地
九州・沖縄	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	9月から一部臨地開始
九州・沖縄	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	4施設中2施設受け入れ可
九州・沖縄	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	2020年10月開講予定であったが、11月開講に変更。
九州・沖縄	レベルIV実習	母性看護学	変更予定				あり	あり	学内対面実習とオンライン実習
九州・沖縄	母性看護学実習	母性看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部の实習施設は臨地で実習
北海道・東北	母子看護学臨地実習Ⅰ	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	実習の日数・時間を変更して臨地実習を開始したが、途中より、遠隔実習に変更した。
北海道・東北	小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ	小児看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	臨地の日数が減った分、学内に
関東	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	定められた実習期間内に臨地での実習と遠隔での実習を組み合わせ実施。状況によって、適宜遠隔に切り替えての実施も念頭に置いて準備している。
関東	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨地実習受け入れ困難、臨地1日
関東	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	小児病棟での実習中止・外来のみあとは学内実習
関東	健康問題別実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	一部学内実習に切り替えた
関東	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	あり	10/2までで終了
関東	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部9/28より臨地での実習を再開した。
関東	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	全日程学内・臨地なし
関東	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	臨地実習の日数短縮化のため、遠隔実習の日を組み入れた。また、受け入れ可能な施設に学生を再配置した。
中部	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	あり	なし	あり	学内実習分はオンラインに変更
中部	こどもの健康生活支援看護実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	保育所実習が中止となり、一部を学内に変更
関西・近畿	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	一部の学生が学内実習

調査A <日本私立看護系大学協会>

1. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
関西・近畿	小児看護学実習	小児看護学	変更予定				あり		一部の施設が中止となり、学内実習に変更した。
関西・近畿	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	現在、受け入れ施設なし
関西・近畿	小児看護学実習	小児看護学	変更予定				あり		学校(支援学級)への見学実習を行う
関西・近畿	母子支援実習Ⅰ	小児看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	複数施設を利用しており施設により対応が違っている
関西・近畿	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	あり	臨地での実習日数を短縮した実習を遠隔実習に変更
関西・近畿	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	2施設から断られた、他は臨地実習
関西・近畿	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	左記項目の全てを組み合わせている
関西・近畿	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり					学内実習も実施
関西・近畿	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	約6割の断られた実習先のみ変更しており、4割は例年通り。
関西・近畿	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	なし	なし	なし	なし	なし	変更して実施。学内・遠隔は期間の一部
中国・四国	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり		3年次領域実習
中国・四国	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	幼稚園実習のみ実施（予定通り）
中国・四国	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	状況によって遠隔実習への変更が増える可能性もある
中国・四国	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	各1週間のうち2日を臨地
九州・沖縄	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	すべて学内実習
九州・沖縄	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	2020年10月開講予定であったが、11月開講に変更。
九州・沖縄	レベルⅣ実習	小児看護学	変更予定				あり	あり	学内対面実習とオンライン実習
九州・沖縄	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	臨地での実習日数が減り、学内実習と遠隔実習に振り替えた
九州・沖縄	小児看護学実習	小児看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部の实習施設は臨地で実習
北海道・東北	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	実習施設から実習指導者（3名で1日）の参加による学内実習の充実、他実習施設制作のDVD視聴
北海道・東北	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	臨地の日数が減った分、学内に
関東	精神保健看護実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	全体の半分を臨地、残りを学内実習
関東	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	あり	2週間の前半は臨地での実習、後半は遠隔実習とする（場合によっては学内の可能性もあり）
関東	健康看護支援・健康障害看護援	精神看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	直前に実習場から中止の連絡あり場所を変更した
関東	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨地実習受け入れ施設無く、臨地0日

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が“変更なし”の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が“変更予定”の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
関東	健康問題別実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	一部学内実習に切り替えた
関東	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部9/28より臨地での実習を再開した。
関東	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地2日日
関東	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地の日数を短縮し一部学内実習とした
関東	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	実習施設職員にコロナ感染者が出たグループは途中から学内実習に切り替えた
関東	精神看護学実習	精神看護学	変更予定		なし	なし	あり	なし	すべて学内実習
関東	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	臨地実習は、実習受入れ可の社会福祉施設のみとし、期間短縮（2日→1日）学生配置を変更
関東	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	就労支援施設1施設のみ実習時間の短縮
中部	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	臨地実習期間の短縮や実習前の抗原検査実施が条件となった医療機関がある。
中部	精神看護学臨地実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨地の短縮/中止による不足日数を学内(or遠隔)実習で行う
中部	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり		あり	あり	あり	一部の実習施設について、実習受け入れのための条件が厳しく、大学側の判断で学内実習に切り替えた。
中部	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	4の実習施設のうち1つ受け入れ拒否のため変更
関西・近畿	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	臨地の受け入れが全面停止
関西・近畿	精神看護学実習	精神看護学	変更予定			あり			実習受入中止の施設があったため、実習施設を変更し、実施予定。
関西・近畿	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	現在、受け入れ施設なし
関西・近畿	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	学内対面とオンラインのハイブリッド実習
関西・近畿	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	あり	臨地側より受入れ期間の短縮を要望された。学内と遠隔実習の変更は期間の一部のみ。
関西・近畿	健康支援実習II	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	複数施設を利用しており施設により対応が違っている
関西・近畿	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	あり	臨地での実習日数を短縮した実習を遠隔実習に変更
関西・近畿	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	すべて学内実習へ変更
関西・近畿	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり					学内実習も実施
関西・近畿	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし		あり		実習施設より実習受け入れ中止連絡あり
関西・近畿	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	変更して実施。学内・遠隔は期間の一部。
中国・四国	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり		3年次領域実習
中国・四国	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	状況によって遠隔実習への変更が増える可能性もある

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
中国・四国	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	なし	なし	なし	あり	なし	受け入れ可能な施設にてすべての学生が1日見学
九州・沖縄	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	9月から一部臨地開始
九州・沖縄	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	2020年10月1週目より開講予定であったが、10月4週目より開講に変更。
九州・沖縄	レベルIV実習	精神看護学	変更予定				あり	あり	学内対面実習とオンライン実習
九州・沖縄	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	同上
九州・沖縄	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	なし	なし	なし	なし	なし	宿泊場所など通学に関する方法の変更もあり得る。
九州・沖縄	精神看護学実習	精神看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部の实習施設は臨地で実習
北海道・東北	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	臨地の日数が減った分、学内に
関東	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	あり	なし	あり	実習受け入れ中止の施設あり、学生の終日滞在が困難のため半日実習
関東	生活支援看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	実習受け入れ中止の施設あり、施設内に入ることはできるが、患者への面談等への参加は禁止の施設あり
関東	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	全て臨地での実習が不可となった
関東	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定			あり			今後の感染状況により、同行訪問が難しいこともありという回答の施設が多い。そのようになった場合、実習施設内若しくは学内実習に切り替える可能性あり。
関東	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	あり	なし	あり	定められた実習期間内に臨地での実習と遠隔での実習を組み合わせ実施。適宜遠隔に切り替えての実施も念頭に置いている。
関東	健康看護支援・健康障害看護援助論実習Ⅵ(在宅)	在宅看護学	変更予定	なし	なし	あり	あり	なし	実習場から中止の連絡を受け一部変更した
関東	在宅看護論実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨地実習受け入れ施設無く、臨地0日
関東	健康問題別実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	一部学内実習に切り替えた
関東	看護入門実習Ⅰ	在宅看護学	変更予定	あり		なし	あり	あり	すべて学内に変更
関東	在宅看護実習	在宅看護学	変更予定	あり		なし	あり	あり	すべて学内に変更
関東	地域・在宅看護学実習Ⅱ	在宅看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	実習施設によって、対応が異なる。
中部	在宅看護実習	在宅看護学	変更予定	なし	なし	あり	なし	なし	一部実習施設からのお断りがあり施設を変更した。
中部	在宅看護実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	学内実習への変更は一部
関西・近畿	在宅看護実習	在宅看護学	変更なし	*	*	*	*	*	今後変更の可能性有り

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
関西・近畿	在宅看護実習	在宅看護学	変更なし	*	*	*	*	*	実習施設の感染状況により変更の場合あり
関西・近畿	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	2週間で6日間臨地
関西・近畿	健康支援実習Ⅰ	在宅看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	複数施設を利用しており施設により対応が違っている
関西・近畿	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	なし	なし	あり	臨地での実習日数を短縮した実習を遠隔実習に変更
関西・近畿	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり					学内実習も実施
関西・近畿	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	変更して実施。学内・遠隔は期間の一部。
中国・四国	在宅看護論実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり		3年次領域実習
中国・四国	在宅看護論実習	在宅看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	状況によって遠隔実習への変更が増える可能性もある
中国・四国	在宅看護論実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	受け入れ可能な施設にてすべての学生が1回は訪問
九州・沖縄	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	9月から一部臨地開始
九州・沖縄	在宅生活支援実習	在宅看護学	変更予定	なし	なし	なし	あり	なし	実習施設それぞれの意向に沿って学内演習を実施している。
九州・沖縄	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	2020年11月開講予定であり、開講時期の変更はない。
九州・沖縄	レベルⅣ実習	在宅看護学	変更予定				あり	あり	学内対面実習とオンライン実習
九州・沖縄	在宅看護論実習	在宅看護学	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	同上
九州・沖縄	在宅看護学実習	在宅看護学	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部の实習施設は臨地で実習
九州・沖縄	在宅看護学実習	在宅看護学	変更なし	*	*	*	*	*	2021年度開講予定
北海道・東北	統合看護臨地実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	臨地実習の日数・時間を変更して実施予定
北海道・東北	看護総合実習	看護の統合と実践	変更予定		あり		あり		1箇所学内実習、1箇所時期を延期、その他の実習施設はは予定通り
北海道・東北	統合実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	学内実習は一部
関東	統合実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	領域別に対応が異なるが、内容の見直し、期間短縮する領域もあり。
関東	統合実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	一部変更 学生の居住地により制限あり
関東	地域連携実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	外部施設での実習があるため、期間を延長して実施する
関東	看護セミナー実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	一部学内実習に切り替えた
関東	在宅看護学実習 統合実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	臨地各2日
関東	統合実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	実習を受け入れてくれる施設へ変更

調査A <日本私立看護系大学協会>

1. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
関東	看護実践統合実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	実習施設によって学内実習・遠隔実習に切り替えたところあり
中部	総合看護実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	臨床で実施できる看護ケアに対して、患者との接触の観点から厳しい制限がかかった。臨地実習の短縮化に伴い、学内実習・遠隔実習の日程が増加した。
中部	統合看護学実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	臨地実習すべて中止
九州・沖縄	総合看護学実習	看護の統合と実践	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	一部学内実習に変更。
九州・沖縄	関連職種連携論実習	看護の統合と実践		*	*	*	*	*	2021年度開講予定
九州・沖縄	看護管理実習	看護の統合と実践		*	*	*	*	*	2021年度開講予定
関東	地域母子保健実習	助産学実習	変更予定	あり	あり	なし	なし	なし	対象者がいない日程での見学実習に変更（1施設）
中部	助産学実習	助産学実習	変更なし	*	*	*	*	*	後期は予定通り臨地での実習可能。
関西・近畿	助産学実習	助産学実習	変更なし	*	*	*	*	*	実習施設の感染状況により変更の場合あり
関西・近畿	助産学実習	助産学実習	変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	実習時期を延長し受入可能な施設で実施
関西・近畿	助産学実習Ⅱ	助産学実習	変更予定	あり	あり	なし	なし	あり	臨地実習を基本に、臨地での日数を短縮し、学内、オンライン実習変更するなどの工夫
関西・近畿	助産学実習	助産学実習	変更予定	あり			あり		臨地実習+学内実習の組み合わせ
関西・近畿	助産学実習	助産学実習	変更予定	あり					学内実習も実施
中国・四国	助産学実習	助産学実習	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	実習期間の短縮、シミュレーションにて分娩介助の実施
北海道・東北	産業保健実習	公衆衛生学実習	変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	臨地の日数が減った分、学内に
北海道・東北	市町村実習	公衆衛生学実習	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	臨地の日数が減った分、学内に
関東	公衆衛生看護学実習	公衆衛生学実習	変更なし	*	*	*	*	*	実習先に負担の無いよう感染対策を施し実施予定
関東	公衆衛生看護実習	公衆衛生学実習	変更予定	あり	なし	なし	あり	なし	全体の3/4を臨地、残りを学内実習
関東	公衆衛生看護実習Ⅱ	公衆衛生学実習	変更予定	あり	あり	なし	なし	あり	前期が遠隔実習へ変更したため、後期に保健師活動の同行・見学実習を追加した。
関東	公衆衛生看護学実習	公衆衛生学実習	変更予定	あり	あり	なし	あり	なし	一部学内実習に切り替えた。1-2月の実習予定を早めて実施。
関東	公衆衛生看護学実習Ⅰ	公衆衛生学実習	変更予定	なし	なし	あり	なし	なし	2月開講予定。8施設利用のうち、1施設で受入れ中止のため別施設に変更実施。
中部	公衆衛生看護学実習	公衆衛生学実習	変更なし	*	*	*	*	*	実習内容の制限は生じている。
中部	地域看護学実習Ⅲ	公衆衛生学実習	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	最低限の臨地、遠隔実習の取り入れ、かつ学内実習を組合せて実施予定する。
中部	公衆衛生看護学実習Ⅰ	公衆衛生学実習	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	時期を変更し、臨地実習を実施した。

調査A <日本私立看護系大学協会>

I. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が「変更なし」の場合、非該当として「*」を設定

設置場所	実習科目名	専門領域	見通し・予定	「見通し・予定」が「変更予定」の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数・時間を短縮	臨地実習の時期を変更・延期	実習施設を変更	学内実習への変更	遠隔実習への変更	
中部	公衆衛生看護学実習Ⅱ	公衆衛生学実習	変更予定		あり				実習時期のみ変更した。
中部	公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・産業看護実習	公衆衛生学実習	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	臨地、学内、遠隔をミックスして行います。
関西・近畿	プライマリケア実習Ⅳ	公衆衛生学実習	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	(例年は制限等のない) 事業や会議ごとの参加可能な学生人数の制限・縮小が生じた。
関西・近畿	公衆衛生看護学実習Ⅰ	公衆衛生学実習	変更なし	*	*	*	*	*	実習施設の感染状況により変更の場合あり
関西・近畿	コミュニティケア実習	公衆衛生学実習	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	遠隔で指導し、通常利用している場所を変更した
関西・近畿	公衆衛生看護学実習Ⅱ	公衆衛生学実習	変更予定	あり	あり	なし	なし	あり	臨地実習を基本に、臨地での日数を短縮し、学内、オンライン実習変更するなどの工夫
関西・近畿	公衆衛生看護学実習	公衆衛生学実習	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	一部、臨地での受入中止の連絡あり
関西・近畿	地域生活援助論実習Ⅰ	公衆衛生学実習	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	※統合科目
関西・近畿	地域生活援助論実習Ⅱ	公衆衛生学実習	変更なし	*	*	*	*	*	※統合科目 現段階での予定です
関西・近畿	生活援助論実習Ⅰ	公衆衛生学実習	変更予定	あり	なし	なし	あり	あり	※統合科目
関西・近畿	生活援助論実習Ⅱ	公衆衛生学実習	変更予定	あり	なし	あり	あり	あり	※統合科目
関西・近畿	生活援助論実習Ⅲ	公衆衛生学実習	変更予定	あり	あり	なし	あり	あり	※統合科目
中国・四国	公衆衛生看護学実習Ⅰ	公衆衛生学実習	変更予定	なし	なし	なし	あり	なし	3年次領域実習
九州・沖縄	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	変更予定	あり	あり	あり	あり	なし	8・9月学内と臨地並行
九州・沖縄	公衆衛生看護学実習	公衆衛生学実習	変更なし	*	*	*	*	*	すべての実習を臨地で可能
九州・沖縄	公衆衛生看護学実習Ⅰ(行政)	公衆衛生学実習	変更なし	*	*	*	*	*	2021年開講予定
九州・沖縄	公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)	公衆衛生学実習	変更なし	*	*	*	*	*	2021年開講予定
中部	養護実習		変更予定	あり	あり	あり	あり	あり	養護教諭課程の実習。春・秋2週間ずつが秋3週間に変更。
中部	成人老年看護学実習Ⅰ		変更予定	あり	なし	なし	なし	なし	旧カリキュラムの実習を履修する学生のみ
関西・近畿	プライマリケア実習Ⅱ		変更予定	あり	なし	あり	あり	なし	臨地実習そのものは中止になっていないが、訪問に行けないため、カルテからの情報収集をして看護過程の展開を行うなど、実習形態の変更はあった。また、訪問看護ステーション内に学生がいる時間を少なくするため、学内とステーションとでオンラインカンファレンスを行うなど、施設ごとに対応を工夫している。

調査A <日本私立看護系大学協会>

1. 2020年9月～10月以降、開講予定あるいは開講している実習科目についてご回答ください。

※「見通し・予定」が”変更なし”の場合、非該当として「*」を設定

設置 場所	実習科目名	専門領域	見通し ・予定	「見通し・予定」が”変更予定”の場合					その他（自由記述）
				臨地の日数 ・時間を短縮	臨地実習の時期 を変更・延期	実習施設 を変更	学内実習 への変更	遠隔実習 への変更	
九州 ・沖縄	公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保 健）		変更なし （予定し ていた臨 地日数・ 時間で実 施）	*	*	*	*	*	2021年開講予定

調査A <日本私立看護系大学協会>

II. 臨地実習（再開予定も含む）に向けてのCOVID-19対策・調整についてお聞かせください。

1. 臨地実習に向けて、学生指導で行っているものすべてについて選択してください。

設置場所	その他（自由記述）
北海道・東北	新型コロナウイルス感染症に対応する看護学実習ガイドラインを作成し、学生に感染予防を周知徹底し、感染予防対策を実行して実習に臨むことの誓約書の提出を求めた。また、実習施設にも誓約書を提出した。
北海道・東北	(在宅看護学実習) 「マスク、手指消毒剤」については、実習日程分のマスク、手指消毒、ディスポ手袋、ディスポエプロン、アルコール綿、ポーチ入りせっけんを実習生に配布し、フェイスシールドは要望のあった実習施設の学生に配布した。 (助産学実習) 直接妊産婦や新生児と関わる機会が多い実習となることから、実習施設によっては、実習開始2週間前から職種を問わずアルバイトの禁止および岩手県内に滞在していることを確認してから実習をするよう要請されているため、その旨を学生に指導している。
関東	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトについては、経済的な問題がある学生もいるため、大学として禁止はしていませんが、感染予防対策をとるように促しております。 ・実習中に使用するマスクと手指消毒剤については、実習の学生に全員配布しております。 ・臨地実習に限定せず、学部や全学で指導している公共交通機関利用時の注意は「指導無し」としております。
関東	看護学科の学生は、実習があるので、上記のように厳しい指導をしているが、他の学科ではそれほど厳しい指導はなく、日常的に教員が学生を指導するような光景は見られない。それを見た看護学科学生の気が緩む傾向があり、指導しにくいと感じる。PCR検査は、実習実施の条件ではなく、必要があって実施した場合は学内の授業も同様であるが、結果を大学に報告しなければならない。結果が陽性の場合、本人と濃厚接触者は自宅療養となり、即時実習施設には連絡をする。
関東	<ul style="list-style-type: none"> ・海外旅行は禁止、公共交通機関を利用する帰省以外の国内旅行（特に県外）は自粛とし、病院実習の2週間前からは全ての旅行について禁止としている。冬休みに帰省する寮生は、原則、帰寮前2週間に発熱、その他のコロナ様症状がないことが確認された場合に帰寮を認めることとしている。 ・学生はスマホアプリを使って、毎日、発熱、その他のコロナ様症状の有無を記録している。実習前2週間、実習中、帰寮前2週間は、それらの健康情報を大学に送信することとなり、未送信が多い学生は実習させない、帰寮させないこととしている。 ・部活・サークル活動等については、行ってはならないことを全学的に決めた上で、感染対策に配慮した活動計画を部活・サークル毎に提出させ、その内容をチェックして、活動を許可するか否か決定。 ・アルバイトについては、接客を伴うものは禁止、その上で希望するアルバイトの届けを提出させ、マスク、換気、消毒等の感染対策が徹底され、15分以上人と接触しない、休憩も含めて人と飲食する機会がない等のアルバイトは認めている。アルバイト届には責任者の記載等も求め、学生が感染した場合、あるいは感染者と接触した場合に、迅速に対応できるようにしている。 ・学生生活の新たな指針を定め、学生に周知。その中で、カラオケ、ゲームセンター、コンサート等の立ち入り禁止の場所を具体的に示している。寮があるため、寮での感染予防行動を具体的に示すとともに、学生及び教職員以外の立ち入り禁止、学習室や集会所の使用禁止等を示している。また、共同浴室であるため、感染対策を考慮した入浴方法について、教員の指導の下、寮生に考えさせ、それを徹底している。 ・実習施設からの要望もあり、学生生活の新たな指針に関する誓約書を学部長宛に出してもらった。 ・行動記録表については、一部の実習について、実習施設からの要望に応じて、実習前2週間の記録をさせ、教員が確認、実習中にも記録を求めている。学生のプライバシーにも配慮して、接触した人については、頭文字のアルファベット表記等としている。感染対策が徹底され、飲食を伴わないアルバイトであるが、人との接触が15分以上である場合で、経済的理由からアルバイトを希望する学生については、毎日の行動記録を求め、2週間分ずつ大学に提出することとしている。 ・学生更衣室や学生自習室については、学生への指導というよりは、更衣室用に追加の場所を確保し、学生を割り当て、3密を避ける、学生自習室は机と椅子を減らし3密を避けるなど、大学側が感染予防を考慮した環境づくりを行っている。 ・実習用のマスク（1日1枚）と手指消毒剤とそれを常に持ち歩くためのポシェットは大学が用意し、学生に配付している。追加で要するマスクは学生持ち、消毒剤の補充は大学でできるようになっている。
関東	・マスクの種類と推奨されるマスクの説明
関東	特に、実習に関連する上記のような指導内容については、「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う臨地実習の基本方針」として教員用、学生用の冊子を作成した。また、その冊子に基づき、学生には実習オリエンテーションにおいて文書及び口頭で指導を行った。それにより、学生と教員が共通理解することに繋がり、学生も教員も感染に対する不安が徐々に軽減しつつあるように感じる。
関東	臨地実習で使用するマスクと手指消毒液は大学が用意しています。
関東	教学課を中心に付属病院のコロナ対策委員会で決定された対策方法と学内での対策方法を合わせて、随時バージョンアップさせて対策に臨んでもらえた。

調査A <日本私立看護系大学協会>

II. 臨地実習（再開予定も含む）に向けてのCOVID-19対策・調整についてお聞かせください。

1. 臨地実習に向けて、学生指導で行っているものすべてについて選択してください。

設置場所	その他（自由記述）
関東	マスクや手袋等、防御具の使用が制限されており、実習場所を提供されても、見学が多く、実際に看護援助できないという状況に、実習指導の困難さを感じています。
関東	全学的に適用している「新型コロナウイルス感染拡大を防止し、健やかな生活を送るためのガイドライン」を示し、学生・教職員へCOVID-19と共に生活するための生活行動指針を示している。
関東	「PCR検査等の実施と実習施設への証明書報告」については、実習施設から必要とされた場合にのみ行っている。 「実習期の洗濯」については、COVID-19対策以前より、実習着単独で洗濯するよう指導している。
関東	ZOOMによるオンライン授業と学年登学曜日を決めての対面授業の併用実施している。 新型コロナ感染対策プロジェクト委員会を発足し、感染対策及び学生指導を実施している。 群馬県警戒レベルを参考にしている。（10月現在、警戒レベル2）
関東	臨地実習施設から実習中に感染する可能性があることの承諾書を要求された。そのため、保護者と学生に向けての承諾書の作成と説明を実施した。
関東	PCR検査と陰性証明書の提出については、実習施設が求めてきた場合もしくは学生のコロナ感染発生・疑いがあった場合のみ。学内で対面実習を行う場合は、入構する学生数の制限と調整を行った。実習室は教職員の目が行き届かないことから、現在閉室している。
関東	・2番目の質問の意図が不明なため回答できなかった。 ・PCR検査は実施していないため学生指導はしていない。
関東	COVID-19の感染拡大に伴い、文部科学省・厚生労働省より提示されている「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」（令和2年6月1日）を踏まえ、学生、教員の安全確保、感染防止を第一優先に、本学学生の实習に関する方針を定めた。実習中止等判断基準と実習中止時の代替措置についても定め、保護者・学生にHPにて周知を図った。
関東	看護学実習を行うにあたり、「看護学実習におけるCOVID-19感染対策マニュアル」（学生用および教員用）を作成した。内容としては、「実習前の感染対策」「病院実習中の感染対策」「実習後の感染対策」「感染症発生時の対応」で構成され、資料として実習前中後に学生がチェックするための項目、健康チェック表、手指衛生に関する指導内容を添付した。マニュアル作成にあたっては、実習病院看護部から意見をいただき、その内容も含めた。マニュアルは、実習に参加する学生、教員、実習病院看護部に配付した。実際に実習を行い、加筆修正が必要な箇所があり、現在ver.2の作成に向けて学内で検討中である。
関東	実習前PCR検査の実施を必須とし、陰性証明の提出をもって実習を受け入れて頂いている施設があり、その費用負担が大きい（教育後援会負担） アルバイトの自粛により、生活苦を訴える学生もいる。「感染防止徹底宣言ステッカー」により認定されているところであればアルバイトしてもよいかという問い合わせもあり、学生の厳しい経済状況もうかがえる。
関東	学生の行動管理は難しい。自宅学習等における、ストレスコーピングと外出先の管理において、ジレンマが生じ、メンタル面の問題などが出てくる可能性がある。
関東	・行動記録表は臨地実習開始2週間前から記載を求め、濃厚接触の場合などには大学への提出を求めることを説明。行動記録表は、臨地実習のタイミング等の履修方法に応じ科目（学年）により記載項目は一部異なる ・感染防止策については、基礎看護援助方法Ⅰ（1年生）、病原微生物学（1年生）、医療の質と保証Ⅱ（3年生）にて学ぶ。 ・マスク・手指消毒剤は大学で一括購入し準備、利用する。
関東	全学生に対して毎朝の体温測定とその報告をネットにてするように2020年3月より実施し、37度以上ある場合は、すぐ受診を義務づけている。上記の諸件につき感染専門看護師資格のある准教授を中心に3月上旬に新型コロナ感染防止マニュアルを作成し、全学部および附属中学・高等学校にも配付し、生徒・学生の意識教育を実施し、看護学部内では、4月5月6月7月8月9月10月の毎月1回クラスの時間に新しく更新した感染症マニュアルを配付し、各学年に講義し、指導を実施している。
関東	学内及び臨地実習で必要に応じて、face shieldを大学で購入し、感染防止のための使用上の指導をおこなった。また臨地実習のみならず、事前の学内での技術演習ができず、小規模大学では学習環境を急に整えることもできず、不十分ながら各教員が知恵を絞り、現在ある視聴覚教材等を活用したり、教員が患者・看護師モデルになりリアル感を出すための役者に扮したりと努力をしました。それでも、学生たちが実際にイメージ化するには難しく、学生・教員双方での苦労が見られていました。このような不測の事態が生じたときには、本協会のお力添えで大学間交流ができ、実習室の機器・備品の充実した大学を利用可能とできるようにするとか、教員間で共に現状問題の解決に向けて対策を講じることができるよう体制づくりを検討いただくと大変ありがたく思います。

調査A <日本私立看護系大学協会>

II. 臨地実習（再開予定も含む）に向けてのCOVID-19対策・調整についてお聞かせください。

1. 臨地実習に向けて、学生指導で行っているものすべてについて選択してください。

設置場所	その他（自由記述）
中部	①マスク、手指消毒剤は、大学（領域ごと）が購入・準備し学生に経済的負担がないようにしている。②学内代替実習を行う際、実習である自覚を持たせるためにユニフォームに更衣させていたが、校舎内の学生更衣室が密になり（他領域の実習学生と時間帯がかぶるため）、学生たちからも不安・不満の声が出たので、年度途中（秋学期以降）の実習からは更衣室使用禁止とし、通学の私服（ただし華美にならないよう）のまま学内実習を行うことになった。
中部	・「行動記録表の大学への提出」については、体調不良や感染発生など、何らかの事象があった場合のみとしている。 ・実習施設からの要望により追加した項目もある（感染拡大地域への移動に伴う学内・実習施設立ち入り禁止）。
中部	・インフルエンザワクチン接種はこれまでも学部で一斉に接種している。 ・基本的事項は大学の規程に基づき、細部の運用は学部の実習委員会で方針を決定しておりそれを順守している。
中部	アルバイトについては、学生の経済状況に影響を及ぼすことも考えられるため、積極的に禁止にはしていない。
中部	・PCR検査結果の提出は該当者のみ ・学内更衣室の利用を禁止している
中部	全学生へフェイスシールドを配布しています。
中部	・PCR検査については、施設側からの依頼があった場合にのみ検査し、検査費用は施設が対応 ・マスクについては各自で購入するよう指導したが、臨地での実習には大学で購入したものを1日1枚配布し、使用する。実習終了後は各自で購入したものを使用 ・行動記録表・健康チェック表は常に持参し、必要時提示してもらう
関西・近畿	5月より毎日（土日、長期休暇含む）manabaにて健康状態や行動履歴の記入を指導未記入の場合、直ちに個別指導を行っている。
関西・近畿	PCR検査等の実施と実習施設への証明書報告については、指示のあった実習施設のみ実施・報告しています。
関西・近畿	行動記録については、健康チェックとともに常に携帯させており、教員が確認、臨地の求めに応じて提示している。臨地施設によっては、臨地施設指定の行動チェック表を使用している。 ワクチン接種に関しては、今回に限らず以前から指導しており大学で管理している。 アルバイトの自粛、行事・集会への参加自粛について、保護者にも連絡し協力要請を行っている。
関西・近畿	大学の感染対策ガイドラインを基本方針として、学科独自でガイドラインを作成し、感染予防対策を徹底した。学生使用のマスク、フェイスシールド、手指消毒剤は学生個々に大学から配布。また昼食時に使用できるランチョンマット用布ナフキンやマスクケース等も大学で作成し、配布している。体調管理および行動記録は4月前期授業開始時より記載を指導し、実習時にはさらにチェック事項を再考し、管理表を修正している。発熱および感染症状、類似した症状があるときには必ず担当教員への報告を徹底し、受診を促し、診断書をもって登学許可としている。
関西・近畿	発熱時3日間は登校禁止になるため特別措置として、1週間30時間の臨地での実習を行い、2週間で7日の臨地実習を行っている場合は、最低1日以上以上の学内実習を行うことで、それを出席数に数えて実習の出席日数確保としている。今年だけの措置。
関西・近畿	・『新型コロナウイルス感染予防に関する臨地実習の行動指針』を作成し、学生に周知した。 ・学生は、実習日前後2週間の健康観察表（様式1）および行動計画表（様式2）を作成し、確実に感染予防行動がとれるようにした。
関西・近畿	実習のための技術練習やオリエンテーションなどは、学生の三密を避けるように、教室配置の工夫や登校日の工夫などしている。予防接種や感染に関する知識や認識の強化は各教員が授業時にも繰り返し説明している。
関西・近畿	PCR検査については、その時点で陰性であっても、いつ陽性に転じるか不透明であり、実習前に、実習を目的として全員に検査を受けさせることは実施していません。そのため、実習2週間前と実習後2週間は学生の検温、体調管理など等の健康管理表を作成し、記録させ、実習時には毎日、健康管理票を実習指導教員が確認して、指導者に報告するようにしています。一方、37.5度以上の発熱や体調不良の場合は実習を休ませ、発熱が8度以上になり、倦怠感などがあればPCR検査を受けてもらい、陰性であることを確認しています。
中国・四国	本学では、原則、実習施設の受入れ条件に従い実習を実施しておりますが、大学としてもCOVIT-19の感染防止及び臨地実習の安全な実施を目的に、1.実習開始前の感染防止対策の修得・実施 2.学生自身が行う健康管理 3.学生の履修の可否を判断する基準 4.実習施設で感染者が発生した場合の取り扱い 5.実習における欠席について を「日本赤十字広島看護大学 臨地実習方針」において定めております。なお、学内実習になっても、実習目的・目標の変更をせずに、学内実習によって、目標を達成できる内容としています。

調査A <日本私立看護系大学協会>

II. 臨地実習（再開予定も含む）に向けてのCOVID-19対策・調整についてお聞かせください。

1. 臨地実習に向けて、学生指導で行っているものすべてについて選択してください。

設置場所	その他（自由記述）
中国・四国	実習科目を履修している学生は、自己管理も含めて可能な限り努力して取り組んでくれている。
九州・沖縄	実習時に使用するテキストの利用方法 COVID-19対応の保険に加入を推奨
九州・沖縄	学生に医療・看護を学ぶものとしての責任の自覚を徹底して指導している。 隣接して大学病院があるために、日頃のメディカルエリアでの行動で感染拡大防止に務めるよう指導している。
九州・沖縄	実習施設により、実習条件がそれぞれあって、衛生管理行動は各領域からしっかりとオリエンテーションと確認を行っている。 学生はそれぞれの施設に対応することが求められ、混乱も予測されるので、教員は細部にわたって細かい注意をはかり、学生と同時に教員もストレスを抱えている。
九州・沖縄	一部の臨地実習施設から感染対策への詳細な要望あり、要望のない施設にも統一した指導管理体制で実習に臨んでいる。
九州・沖縄	環境整備 換気設備の設置
九州・沖縄	2020年10月から11月にかけて、基礎看護学実習において98名の学生の臨地実習の受け入れを、PCR検査を実習病院で受けその結果が陰性の場合、実習受け入れを許可することとなった。その理由と経緯は、基礎看護学実習の計画を、1年次（2019年）3月に1週間（1単位）、2年次（2020年）8月から9月に2週間（2単位）計画していたが、両方の臨地実習が中止となった。2020年10月まで、一度も臨地実習の経験を経ないままの学生を、何とか臨地実習の経験をさせたい思いから、実習施設を変更して受け入れ可能な病院を探していたところ、前述した事（事前にPCR検査を受け全員陰性の確認後、実習受け入れ可）を前提条件に受け入れていただき、現在98名中65名の学生の臨地実習を終えた。
九州・沖縄	開設初年度の学部です。後期に入り一部の科目だけ対面授業が開始されたため、感染防止対策として日頃から行っている項目として該当はしますが、臨地実習に向けてとしては「学生指導なし」となります。

調査A <日本私立看護系大学協会>

II. 臨地実習（再開予定も含む）に向けてのCOVID-19対策・調整についてお聞かせください。

2. 感染予防のために実習施設と調整・確認していることすべてについて選択してください。

設置場所	その他（自由記述）
関東	各病院で状況が異なるので、基本的には実習施設の要望に沿って調整している。学生を休ませるかどうかの基準は、大学が決め、教員と学生に周知している。
関東	・学生が実習施設（病棟）内に持ち込むことが可能な物品の確認（持ち込み物品の制限）
関東	担当教員による調整時間の超過、状況を加味しながらの調整による心的・物理的負担が増加している。また学生および保護者の外部実習に対する不安が増加し、その説明を実施している。教員が一丸になり対応することの重要性を学んでいる。
関東	付属病院の実習開始にあたり、実習施設側の感染予防認定看護師と協議しながら進めた。 他の施設での実習開始にあっても、施設側の感染対策方法を確認するとともに付属病院の方法を踏襲するので、教えて欲しいという要望もあった。どちらにしろ、十分に感染対策が行われている実施方法に準じて進めた。
関東	・臨地実習において、発熱があり濃厚感染が疑われる場合には、臨地実習を中止して遠隔に切り替えるなど、状況に応じて臨機応変に備えている。
関東	1日に受け入れて頂ける人数に制限があったため、学生の人数調整など、通常にはない負担が、学生や教員、指導者にある。
関東	・2020年6月～2021年1月迄実施する3年生の各論実習への影響が大きく、実際に対象者に接して心身社会面のアセスメントに基づく看護実践を体験できないことにより、看護職としての成長に大きく影響すると考え、最低ラインでも1週間は臨地実習を確保するように努めている。
関東	本学における実習施設は領域ごとに異なり多岐にわたる。複数領域で使用する実習施設については、実習委員会が学部全体として実習施設と調整・確認しているが、一つの領域が単独で使用する実習施設については、上記の項目の内の「実習委託費の変更」以外は、各実習科目責任者が実習施設と調整・確認している。
関東	実習施設の感染予防等により臨地で実習できない58名の学生に対して、実習予定で11病棟、2クール4週間の期間、実習施設の看護師に学校へ来ていただき、代替実習とし、実際の入院患者さんに許可をいただき、受け持ちを決めオリエンテーションを実施した。その後、看護過程展開し、助言をいただき、修正・評価をくり返した（カンファレンス2回実施。）実践はモデル及び教員に対して、実施・評価した。文科省のガイドラインどおりに実践した。
関東	マスクは午前・午後で交換とし、病院内で廃棄処理している。 臨地実習場所で使用するマスク（病院内のみ）と通学時のマスクは別ものを使用している。
関東	病院によるオンライン用オリエンテーションDVDの作成
関東	・上記は学部全体としての指導を記載した。実習施設の意向も踏まえ詳細は各実習科目（領域別）との話し合いで決定している。 ・PCR検査の実施は実習施設と調整中である。
関東	実習開始に際して、受け入れ施設のスタッフ・患者、学生、指導教員の安全確保、感染防止を考慮した大学としての実習実施の方針を提示し、看護部長、教育担当者と実施の可否について話し合った。 抗原検査の実施が実習実施の条件として、1施設から提示されたため、検査費用は、大学が負担することにした。 苦慮していることとしては、3蜜対策である。その一つとして、カンファレンスルームが十分なスペースの確保ができず、施設によっては、実習終了後、Webexによるカンファレンスに変更せざるを得なかった。 実習終了後、学生と教員とのやり取り、学生の質問に対する対応、学修内容の補足指導等は、クラウド型教育支援システムのmanabaを使って行うため、特に、遅い時間に提出された記録のコメントに教員は過大な負担がかかっている。
関東	「看護学実習におけるCOVID-19感染対策マニュアル」（学生用および教員用）を作成するにあたり、実習病院看護部の意見をいただき、その内容も含めた。このマニュアルは、学生、教員だけでなく、実習病院看護部、実習予定病棟の臨地実習指導者にも配付した。
関東	一時、感染防護用具（手指消毒用ジェル、マスク、グローブなど）の流通が悪く、必要数が確保できない時期があった。 そのため、学部内で在庫を一元管理していた時期があった。（現在は、流通も回復し、各科目ごとに必要数を確保できている）
関東	大学より、臨地実習における授業方法について調査があった。臨地、学内、リモートのいずれかについて実施方法を科目責任者が回答した。この回答に対して、大学より実施時の留意点などの条件を付して、実施の可否の回答があった。

調査A <日本私立看護系大学協会>

II. 臨地実習（再開予定も含む）に向けてのCOVID-19対策・調整についてお聞かせください。

2. 感染予防のために実習施設と調整・確認していることすべてについて選択してください。

設置場所	その他（自由記述）
関東	<ul style="list-style-type: none"> ・大学（学部）として「臨地実習は縮小して実施」との方針で、詳細は各科目担当者による実習調整としている。 ・複数科目の実習を依頼している施設とは、窓口担当者とともに大学と施設双方の方針を確認したうえで、学内でも連携を取りつつ科目別の詳細な打ち合わせを進め準備している。 ・PCR等検査に関しては、大学として実施する体制は整っていないが、一部の実習施設から受け入れの条件として実施が求められる場合があった。調整結果により、PCR検査実施を受け入れ条件とする施設では実習を行わないこととなった（検査実施以外に、地域の感染状況が考慮された）。
関東	感染防護用具の準備について、施設ごとに異なるので、今年度は学生が準備する教材費がかさむことになった。この教材費についての大学から私学のため臨時の補填はない。
関東	<p>実習施設により感染防止対策に差があり、調整が難しいことがあった。たとえば、実習まじかになり急にface shieldを大学で準備してほしいとの要望がある反面、施設側でマスク以外のアルコール消毒薬、face shield、エプロンなどすべてを準備下さる施設があるなど、実習指導に関する学生一人当たりの指導料は同額あるいは高いにもかかわらず、感染防止対策の準備をすべて大学に要求された。特に困ったことは、N95のマスクを準備するよう要望された施設には、現状なかなか手に入らない時期であったので本当に苦労した。しかし、実習できるチャンスがあるならばと高額な感染予防対策グッズを購入し、学生並びに指導教員へ供給できるよう整えたが、施設側への疑問が湧いた。要望してきた施設の看護師でさえN95のマスク使用をしている状況ではないこと、かつ学生の受入れ病棟が感染者受け入れではないにもかかわらず、学生だけ要望することの矛盾を感じた。なお、マスク不足の時期に東京都看護協会からマスク2000枚を寄付いただいたことは本当にありがたく、私立大学子協議会へご報告させていただきます。</p>
中部	<p>PCR検査の実施について： 実習施設側から推奨された場合がありますが、実施しないことで調整した。 事例）学生は発熱していなくても、同居している家族が発熱した場合、実習施設側から家族にPCR検査の実施を推奨された。この事例では家族にまでPCR検査はしてもらわない、ということで調整した。ただし、当該学生は実習の受け入れをお断りされた。</p>
中部	実習委託費の変更は、現在のところございません。例年実習終了後の支払いになりますので、生じる可能性はあります。
中部	・基本的事項は大学の規程に基づき、学部の実習委員会で方針を決定しており、各領域の実施レベルでそれを順守している。
中部	PCR検査については、本人が感染した可能性があると考えられるときに実施している。また、実習施設からの要請により実施する。
中部	・大学が、これまでの感染予防策の方針に加え、COVID-19用に、新たに感染予防対策についての申し合わせを作成し、学生にも周知している。実習施設との、上記の項目に関する調整・確認は、この申し合わせをもとに、実習施設との会議において、本年8月以降にすべての施設との間で行っている。
中部	・施設と大学が隣接しているため、昼食は帰校している。そのため、感染予防の三蜜回避はできている。病棟では、カンファレンスルーム、学生控室が狭く、感染予防が難しいため、学生の人数を調整している領域がある。
関西・近畿	・実習施設によって、温度感が異なる。
関西・近畿	全ての調整においても、可能な限り病院に多数の教員で訪問することを避け、代表者が電話あるいはメールでやり取りする等の調整を実施している。
関西・近畿	<p>実習委託費については、オンラインの指導、来学での指導も通常の臨地実習指導と同様に考慮する予定である。 学生の体調不良は、臨地・登学をさせず、症状消失後再開する予定であるが、オンラインの利用、実習日の変更など不利益がなく質の低下がないように配慮している。 助産学実習については、10例の正常分娩体験が困難なため平等に2例程度経験できるよう調整している。 臨地実習施設の指示によるところの調整となっている。</p>
関西・近畿	<p>公衆衛生看護学実習、助産学実習については臨地での実習を基本とし、方法を変更しながら実施している。3年生の領域実習については実習施設との調整を行う中で、受け入れ中止や、直前まで判断できないといった施設、また受け入れに協力していただける施設においても院内にcovit-19病棟が設置され、院内でのゾーニング、コホーティングの準備が整っていない中での受け入れとなっている状況や、あわただしい状況の中で指導者の確保が十分にできないなどの事情があり、学生の安全、安心な実習環境の確保のために学内実習に切り替えた。施設側からも安堵の声がきかれた。学内実習では学生の体調管理に留意しながら感染防止策を徹底しており、オンラインを併用しているために、体調に疑義のある学生への個々の対応も可能になるなどのメリットもある。</p>

調査A <日本私立看護系大学協会>

II. 臨地実習（再開予定も含む）に向けてのCOVID-19対策・調整についてお聞かせください。

2. 感染予防のために実習施設と調整・確認していることすべてについて選択してください。

設置場所	その他（自由記述）
関西・近畿	実習時期の大枠の変更はないが、細かい日程の変更はある。
関西・近畿	急性期実習ではICUにCOVID-19患者がいる場合の実習方法の変更がある。 在宅看護学実習では、「受け入れ人数」「実習時間」「実習方法」の調整を行っている。 老年看護学実習では、「受け入れ人数」「受け入れ日数」「実習方法」の調整を行っている。公衆衛生看護学実習では、「受け入れ日数」「実習方法」の調整を行っている。
関西・近畿	・実習開始前には、実習施設と感染予防についても打ち合わせを行った。 ・実習施設の『感染対策マニュアル』も参照し、確実に感染予防行動がとれるように考慮した。
関西・近畿	2月の実習に向けて、各教員が実習病院でこれから注意する事項について「チェックリスト表」の作成をしている。病院と調整し、学生から感染を守ることと、学生が感染者にならないように注意することは遵守する。
中国・四国	・在宅看護学実習は、R1年度実習終了時にR2年度の実習調整をおおよそ行っている。例年であれば4～5月に最終調整を行うが、コロナの影響があり5月に臨地実習について受け入れ困難の回答があった。7月に実習中止とした。 ・老年看護学実習は、10月14日現時点では、実習施設側からの実習受け入れ中止により臨地実習ができない状況にあり、11月末まではすべて学内実習となっている（1～2か月ごとに実習先から実習の受入可否の連絡がある）。そのため上記項目については大学側が調整したいと病院側に伝えている段階でありその後病院側と細かい調整には至っていない。 ・実習費用（単価）については、現在のところ変動はないが、学内実習に変更になっている分、執行額としては減っている。
中国・四国	実習施設は最大限の配慮をさせていただきながら検討できている点ありがたい。
九州・沖縄	同大学の大学病院では、他大学の実習受け入れはしていないが、本学の医学部と薬学部の実習は受け入れてくれているので、大学病院側から対応を要望されることはなく、看護学科が自発的に対応を計画し、大学病院と調整している。しかし、外部の施設の場合は、先方の要望に対応せざるを得ない状況である。
九州・沖縄	本学は付属の病院を持たないため、PCRの検査などは全員にすることはできない。体調の崩れた人にPCR検査をしてもらいたいと考えても、保健所の指示が得られなければなかなか検査してもらえない状況であった。現在は検査をする病院も増えたが、費用が個人負担であるため、簡単に指示することも難しい。 実習委託費に関しては短い時間での実習でも一人の費用を支払っている。もちろん実習施設に行かない日は支払いはない。 実習施設により実習できない学生や、人数制限などで学生の臨地実習経験の差ができることがあり、課題である。
九州・沖縄	PCR検査・フェイスシールドの着用の義務を一部の施設ではあるが要請された。
九州・沖縄	実習施設によって違いはあるが、実習前後2週間の学生行動の記録。 受け持ち患者以外の接触記録、臨地実習中のおよその行動記録も、看護管理者と協議の上で調整している。
九州・沖縄	新型コロナ感染症（COVID-19）対策としては、全学的な対策マニュアルにそい、看護学部独自のマニュアルおよびPCR検査結果対応マニュアルを作成して、教員間の正確な情報共有と適切で迅速な対応ができるようにした。それらのマニュアルの基準となっているものは文科省と厚労省の通達に沿っており、JANPUの連絡および研修会から専門的な知識の動向を得てマニュアルの変更・修正を行ってきた。それらをもとに、学生指導を抗議の受け方、演習等のグループワーク、看護学実習室の使い方、臨地実習オリエンテーション（学内・学外）等、折に触れ多様な機会を通して全教員が行い、感染症対策の学修を名実ともに指導し経験させている。
九州・沖縄	本年開設したばかりの学部なので、該当する実習が基礎看護学Ⅰと高齢者看護学実習Ⅰしかありません。実際には未実施、延期している状況です。従いまして「調整なし」となります。

調査A <日本私立看護系大学協会>

その他、COVID-19に伴う看護学実習への影響について自由に記載してください。

設置場所	その他（自由記述）
北海道・東北	臨地実習での時間減少、臨地場所によっては患者さんと直接話ができない、シャドウイングのみといった状況は、学生の看護技術はもちろん、情報収集能力やコミュニケーション、緊張感の中の時間管理や報連相などの機会が明らかに少なくなっている。この学生たちはの卒業後教育は、かなりの時間が必要になっていくと考える。逆に、学内での実習によって、看護過程の展開や技術の確認など、丁寧に時間をかけて指導できている。感染拡大が起こることによる実習中止が日々の不安としてつきまとう。WITHコロナとして、感染者が存在する中でも実習を継続する方法を検討したい。
北海道・東北	学生の実習時のマスクは、実習施設で用意したマスクを使用する場合もある（附属病院など）。
関東	エプロン・手袋は施設によって大学が持参する場合と病棟のものを使用する場合とあります。
関東	実習施設、日数、内容の変更が生じた。 また、学生の体調不良に対する対応が例年よりも慎重さを求められ、施設との連携がより密に求められた。 学生の精神状態についてもきめ細かく注意し実習を進める必要があった。
関東	前期の実習については、緊急事態宣言が発出された時期に開始を予定していたため、開始時期が2度延期になった。他校も同一施設で実習を実施しているので、前期だけでなく後期にわたって実習日程の調整を何度もやり直して大変だった。実習期間が短縮され、実習施設の人数制限や実習時間の短縮の条件を加味したうえで、履修予定の学生が全員履修できるように、学内実習との組み合わせで時間割を作成した。学生の記録や言葉から、たった1日の臨地実習だとしても多くのことを学べたことがわかり、条件の多い中で組み立てた実習の成果に不安を感じていた教員は、学生に励まされている。
関東	<ul style="list-style-type: none"> 大学の感染対策により感冒症状がある場合は8日間の自宅待機となるため、アレルギーなど別の疾患での症状であっても臨地（病院）での実習ができない状態がある。また、解熱鎮痛剤を服用している場合、COVID-19の症状がマスクされるという理由から、偏頭痛や生理痛など感染でない場合でも、服用していれば臨地（病院）での実習ができない状態になっている。 学生ではなく、学生の同居家族の周囲での感染発生があった場合に、登校や実習施設に行くかどうか、判断を求められ、教員や事務の担当者が悩むことがあるほか、関係各所に連絡をとるために時間をとられている。 実習病院でCOVID-19の集団発生が生じたことから、急遽実習病院を変更することになり、複数のグループが影響を受けた。今後もその病院で実習できるか不確実な状況であり、急な変更が生じる可能性がある。その病院で実習していた学生たちは濃厚接触ではなかったが、当初家族や家族の勤務先から感染を心配されることがあった。今後、その実習病院で実習を再開する場合、学生や保護者から感染対策について心配する声があがることを懸念している。 PCR検査について助産学実習に関して、2つの病院から要望があり実施し結果を提出した。助産学実習に関して、1つの病院ではPCR検査前には受け持ちを断られるケースがあった。 臨地に行けず遠隔（ZOOM）で臨地の指導者に指導に参加してもらっているため、学部として新たに謝金の規定を作った。 前期に遠隔授業でほとんど人と接しない中で学習していたことから、精神面でのダメージを受けている学生が複数名おり、後期の実習参加に支障が出ている。
関東	実習が開始されても、病院でコロナ感染者が出ると、学生の実習が中止になるため、事前に学内での補講内容は検討してはいるが、教員は、その調整に追われ、かなり負担になっている。
関東	<ul style="list-style-type: none"> 実習時間の短縮に伴う実習で獲得すべき判断能力・技術実施や医療者の態度、チームアプローチに対する考えの醸成などが不足する。 現在、徐々に臨地での実習の受け入れが可能となってきている。しかし、再度、臨地での実習の受け入れが全面的に中止になった場合には、実質的に実習の代替えや学修の差を補完することが難しくなることが予測され、臨地での実習ができた学生と、臨地での実習ができなかった学生の間で習熟度の差が生じる可能性があることが懸念される。
関東	<ul style="list-style-type: none"> 同じ実習でも病院により実習時間が異なり、1日の臨地実習時間を減少（1病棟6人の実習であれば、午前・午後3人ずつに分かれて実習する）するグループもある。 同じ実習でも病院により患者への直接的ケアを実施できず、看護師のシャドウイングのみのグループがある。
関東	感染予防対策を徹底して行うにあたり、大学側教員、実習施設側担当者等、同じ内容のことを学生に何度も繰り返したため、学生は重要なこととして受け止めていたとは思いますが、多少辟易していた面が否めなかった。ことの重要性について十分伝える難しさを感じた。

調査A <日本私立看護系大学協会>

その他、COVID-19に伴う看護学実習への影響について自由に記載してください。

設置場所	その他（自由記述）
関東	施設への影響、学生への影響を踏まえて、実習時間の短縮となりました。臨床での滞在時間がどうしても短くなるために、学生の臨床での経験値が薄くなる懸念があります。また母性看護学実習では、分娩時間や母乳育児の実践など予定ができないことも多く、限られた時間内での実習は今年度の学生にどう影響するのか（なるべく影響がないように実習内容を濃くできるよう、工夫はしていますが）、実習後の評価をしていく必要があると考えています。
関東	実習病棟でこれまでより1回に学生が参加する人数が制限されたため、病棟増加と実習日数の減少のいずれかの選択を余儀なくされている。
関東	9月から実習を開始しているので今後どのような対策が必要になるか臨機応変に対応していくための計画は立てています。特に臨地実習中止の場合は躊躇なく遠隔に切り替える。または全面中止して年度内に遠隔で実施して学習内容を担保することにしています。発熱でPCR検査の結果を待つのでは実習が成立しないためです。
関東	この状態が続くことで、学生の自信喪失や、就職の前後で理想と現実の差に悩む、リアリティショックにつながりかねないという懸念があります。 教員などを患者役にして「学内実習」を行っていますが、患者のこぼれや表情を直接見たり触れたりしないと分からない部分も多く、学内実習では限界があると思います。 また、看護実習に行けないことで患者にどのような看護を行うことが最適なのかを考える幅が狭くなってしまっているのではないかと感じます。
関東	どの実習施設も実習生の受け入れをぎりぎりの選択でしてくれている姿勢を感じ、ありがたいと思っています。しかしながら、この1年間全く受け入れ不可の施設もあり、看護領域によっては半数以上の学生が臨地で実習ができない状況です。学内代替実習をしていますが、教員の力量の差が生じやすく、学生の不満の原因にもなっています。臨地実習では、その場に行き、患者さんから学ばせていただくことがどれほど大きかったか、あらためて感じています。学内の感染予防の意識も長期化すると慣れてしまい、気が緩みがちですが、そうならないよう全教員で取り組んでいます。密にならないように少人数で指導をするため、2倍の時間がかかり、だんだん教員の疲労が溜まってきている感じがします。
関東	今年度5月から7月までの前半の臨地実習は、すべて学内実習となった（実習病院受け入れ不可）。 9月以降の後半実習は領域によって差はあるが、日数を調整して臨地実習が可能となった。 病院の受け入れ状況が影響している。 学内実習においては、各領域とも実習室にてシュミレーション教材を活用して技術演習を行い、臨地実習に近づける努力をしている。
関東	・患者ケア時のサージカルマスクは、実習施設によって指示が異なっていました。 学生がしてきたマスクを外し、実習施設の新しいものを使用するようとの指示があった施設 学生がしてきたマスクは、そのまま実習で使用した施設がありました
関東	高齢者施設（デイケア等）で、実習をお断りされるところが複数あり、他の施設を探すまたは受け入れ人数を増やしてもらい対応をしている。
関東	質問3（1の下3つの「実習施設」の回答は、大学と実習施設の両方が負担していますが、どちらが多いかという視点で選択しました。
関東	学生や保護者の不安が強く、実習に行くことを躊躇い、学内実習を希望する学生がいた。CRP検査を受けるのが困難な中、実習の条件項目に挙げてくる実習施設があった。早く、PCR検査をいつでもだれでも安く受ける体制になってほしい。
関東	4年次前期の5～8月に、成人看護学（急性期）、小児看護学II、在宅看護、統合実習が予定されていたが、この時期の臨床は家族面会すらできない状況であったため、こちらから自粛をさせて頂いた。3密を避けながら学内実習を工夫したが、環境は限られ実際のケアを行ってはいないため評価することは難しい。例年に比べて看護実践力の低下は目に見えている。豊かな臨床の場面から培うべき臨床判断力やコミュニケーション力、状況に応じた対応を学んでいない。そのような学生を送り出すことに心が痛む。例年ならば、学生は臨地実習で何度も落ち込み、リフレクションを通して自律や忍耐が養われていく。看護実践力もさることながら、このような学習プロセスを経験しない学生が臨床に出て受けるリアリティショックが心配である。臨床スタッフと新人看護師の双方の負担が急増し、離職やメンタルの問題が多くなるのではないかと危惧している。
関東	調査項目1が、科目ごとに回答することになっているが、秋学期の中でもクールによって、また実習施設、グループ、学生によって多様な対応を求められているため、回答がしにくかった。少しでも影響があった場合は「あり」と回答している。例えば、実習施設の職員にコロナ感染が確認され途中から学内（遠隔）実習に切り替えたグループ、学生の一人がコロナ感染もしくは濃厚接触者になったためにそのグループだけ自宅待機になるなど様々である。

調査A <日本私立看護系大学協会>

その他、COVID-19に伴う看護学実習への影響について自由に記載してください。

設置場所	その他（自由記述）
関東	基本的に実習施設の受け入れ状態により、実習目的を達成できるよう実習計画を変更している。
関東	<p>5月末から開始する3年生の実習は、前期は中止となり、10月から12月にかけて実施できるよう実習期間・時間を短縮したローテーションを組みなおしをした。しかし実習が予定通り実施できた施設と当初から受け入れ中止の施設、実習の途中で中止となるなど混沌たる状況にあって、学修の格差は避けられない。</p> <p>実習中止については、令和2年6月1日付、文部科学省・厚生労働省の関係部局からの「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成設備等の対応について(事務連絡)」に基づき、本学が準備した代替措置のプログラム(オンデマンド教材、対面授業等)を実施しているが、限界があり、臨地での学修効果には及ばない。</p>
関東	COVID-19の影響により、通常とは異なる方法で実習を行っている。実習の開催時期により、臨地での実習を控えた実習、実習期間を例年よりも短縮し実習方法を変更した実習がある。臨地で学修できなかった内容については、学内実習において補完する予定である。
関東	<p>体調不良者とCOVID-19との鑑別が難しいために、一人でも体調不良の学生が出るとグループ学生の全員が当該学生のPCR検査結果ができるまで足止め（自宅待機）を余儀なくされることが多く、実習効果にも影響がある。</p> <p>（検査結果が出なかったために、実習最終日も自宅待機を余儀なくされた実習科目もあった）</p> <p>実習ストレスによる体調不良と思われる事象でも、発熱があるとPCR検査による陰性証明を求める実習施設が多い（同時に、グループメンバーも影響を受ける）。もう少し、協議の猶予を頂けるとありがたい</p>
関東	臨地実習は、実習施設の判断等からほとんどの実習科目で、1日、数日、8日間等日数が減少した。演習等で補っているが、臨床判断を身に着けることについては、不十分であると考える。
関東	<ul style="list-style-type: none"> ・開設3年目であり、2020年度は新規開講の実習科目が2科目あったが、2019年度末より実習計画の相談や教員研修などの調整が進まず、9月に入りようやく調整が可能になる状況であった。 ・実習施設の所在地は県内のほか、都内にある施設が複数あるため、地域の感染状況が異なることで、施設の調整自体が困難である期間が長く（メールでの確認を主とし）、臨地実習の実績もないことから、代替案の作成検討に時間を要した。また、実習施設との協議に十分な機会を設けることができなかった。 ・在学生に対しては、前期末に、通常の（全学生向け）臨地実習ガイダンスを予定していた時期、他大学の状況を含め、COVID19対応や臨地実習の状況などを段階的に説明し（学部長及び委員会による全体ガイダンスや科目担当者によるガイダンスを複数回実施）、できるだけ見通しをもって取り組めるように促したが、適切であったかの評価は現時点では難しい。 ・いわゆる遠隔実習を主とした方法に変更した科目では、事例作成や教材の調達に予定外の経費が加わり、購入計画の追加や再調整を行っている。 ・COVID19対応にともない、臨地実習がないことによる学修への影響や、臨地実習があることによる感染のリスクなどについて、一部ではあるが不安を訴える学生や教職員を認めた。
関東	3年後期、1年後期、2年後期の実習について、受け入れの病棟の変更や受け入れ人数の検討に多くの時間を有し、9月下旬まで調整の時間がかかったこと、例年ならば9月上旬に各論実習開始であるが、1ヶ月以上開始が遅れたので2021年3月まで臨地実習が延長になった。ただし、実習日数については、短縮することなく計画ではスタートできる。今後、途中経過の中で、施設の状況が変化すれば日数や実習内容を変更することになると考える。
関東	<p>附属の施設を持たない教育機関にとって、このような事態が生じると、まず実習受け入れを断られる事態を招くので、実習施設との調整や新たな実習施設の開拓などで教員たちは奔走し、心身の負担は大きかったこと。また学生にとっても、実習施設が変更となることで、若干調整していた近隣施設から遠くの施設への変更を余儀なくされた交通費が高くなった学生もいる。その一方で、学内演習が不十分のまま、あるいはまったく実施できないまま、実習に臨む学生にとっては緊張が強く不安が大きかった。また知識面においても前期からすべて遠隔であり、定期試験実施ができないため、どの程度の知識が身についたのか、理解度はどうなのかなどの把握が十分できない状態で実習を行った結果、学生間での差がみられた。そのような中で何よりも喜ばしいことは、やはり学生たちの実習施設での目の輝きがあり、知識は大丈夫だろうかと思うほどの不十分さではあっても、一生懸命スタッフや教員の指導の下、患者への看護や家族へのかかわりを実践していたことである。やはり看護学生にとって、臨地実習は最高の看護の学びの場であり、実践することで学習意欲が刺激され、ゆっくりながらも成長している姿を垣間見ることができている。と同時に教員たちの疲労度は計り知れないほど強いと思うが、実習場での学生の状況説明する顔が生き生きとしていることから、学生も教員にとっても、看護学実習ができることの素晴らしいさと安心感、満足感などの英子湯を得ていると感謝している。</p>

調査A <日本私立看護系大学協会>

その他、COVID-19に伴う看護学実習への影響について自由に記載してください。

設置場所	その他（自由記述）
中部	大学付属の病院があるので、現場サイドではコロナ禍のもとでも大変協力的である。しかし、経営サイドの判断から、医学部生の実習に比べて、許可されるまでに検討時間が必要であった。また、臨床実習が許可されても患者ケアが制限されており、通常の臨床実習で実践できるケアが大きく制限を受けている。また、臨床実習の日数も約半分となっている。外部の実習施設では、高齢者関連の施設での受け入れは軒並み、受け入れが進まず、学内での実習に切り替えざるをえなかった。
中部	助産学実習は後期は臨地での実習受け入れ可能であったが、例年よりも直接の分娩介助例数は2例前後少なかった。
中部	感染状況の変化により臨地に出向くことができるか流動的なので、学生間での不平等が生じると考えています。また複数の選択肢を設定しての準備が必要なため、教員の負担は多大。
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に関連する予算執行額（実習委託費）については、実習が学内実習となったことによる減額であり、臨地で実習した場合の1人当たりの委託費については変更なし。 ・実習に関連する予算執行額（学生・教員の実習に伴う旅費）についても、実習が学内実習になったことによる減額である。 ・実習施設からの実習受け入れのための条件が示され、その内容が達成が難しい内容であったため（通学を含めた公共交通機関の利用不可、衣食が十分整っていない状況での実習期間中のホテルへの滞在等）非常に困惑し、学内で検討した結果、臨地での実習をあきらめることにした。実習施設からの実習受け入れのための要望をどこまで受け入れるべきか判断が難しい。
中部	基本的に感染防護用具はマスク以外は実習施設の者を使用させていただくが、実習施設によってはフェースシールドの準備をするように言われたりまちまちだったことと、直前の打ち合わせで言われたことがあり、その手配が大変だった。
中部	・2020年5・6月の4年次領域実習は、オンライン実習に切り替えた。ペーパーペイシエントを用いて看護過程を展開を行った。基本的知識は小テストで確認したり、看護過程の思考プロセス、特にアセスメント（情報の解釈・分析）と結論、プランニングまでの思考は十分に補えた。しかし、実践・評価については課題が残った。学生からは患者のイメージがつかなかった、看護技術が心配との意見が多く、オンライン実習でのシミュレーション教育の改善の必要性を実感した。
中部	コロナの影響で実習病院との調整が困難を極めています。
中部	学生の中に、高体温症の学生がおり、本人とご家族、実習施設との調整に苦慮した。
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・補足です。 上記 3.2)の購入者は、施設によって異なります。頻度の多いもので記載しています。 実際には、学生負担となっている項目もあります。
中部	比較的実習を方法の変更をしながら受け入れていただいています。遠隔での実習ということや、まったく実習施設でできないという状況ではありません。しかし、質の担保という点では難しいと考えています。例えば、ある程度行動が制限されていることや、大学の登校そのものを密を避けるため、「学年登校日」に限定されているため、十分な技術のトレーニングや図書室での学習ができないことが関連しています。
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の感染対策、感染予防の観点から、実習受け入れの対応、判断が直前になることが多く、実習施設の変更・調整に苦慮する。 ・施設変更や実習内容の変更について、学生への説明、指導が十分でずに学生に負担がかかっている。 ・実習施設に感染者が出た場合の対応が難しく、時間的にも調整に困難をきたすことがある。
中部	本学は看護学部開設2年目です。そのため臨地実習は2年生の基礎看護技術論として「観察」を主とした実習を期間を1日に短縮して実施しました。当初予定していた2医療施設は学生実習の受け入れを拒否したため、それ以外の施設で、全ての学生の実習を可能とするために学生の配置を変更調整いたしました。

調査A <日本私立看護系大学協会>

その他、COVID-19に伴う看護学実習への影響について自由に記載してください。

設置場所	その他（自由記述）
関西・近畿	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者が多い地域にある大学であるため、いつ実習が中止になっても対応できるようにあらゆるパターンを想定して準備している。 ・同じ実習科目でも、臨地に行ける学生といけない学生が出てきており、学習機会の保証が難しい。 ・臨地により受け入れ態勢が異なる。(午前と午後で入れ替え制、短時間・日数制限・人数制限など)それに合わせて教員の人数も必要となってくるが、人員確保が難しい。 ・臨地の受け入れがOKでも、患者から受け持ちを拒否されるケースが発生している。 ・看護学生が出入りしていることで、実習病院にクレームが入っていると聞く。臨地に向かう交通機関の中や路上でも平常時以上に態度に気を付けるよう指導している。 ・実習指導に当たっている教員より、コロナの影響で入院患者が少なくスタッフに余裕があるため例年以上に丁寧な指導が受けられているとの報告がある。 ・ほとんどの実習施設から、実習2週間前からアルバイトを禁止するよう要望されている。学生の中には生活費を自分で賄っている者もあり、不安の声が出ているが、大学としては従わざるを得ない。奨学金などで対応予定であるが、貸与型の場合返済義務が生じるため悩ましい。
関西・近畿	<p>今年度の実習については、家族の面会制限があり、ご家族への思いを聞く、ご家族にとって必要な療養のための情報を伝える等の支援が実施できない。</p> <p>また受け持ち患者さまが受けている治療や訓練等に参加できる場も限られており、多職種連携についても例年の実習のような学びを得ることができていない。</p> <p>しかし、このような状況下で臨地実習を実施でき、受け持ち患者さまを担当させていただけることに、学生が感謝の気持ちを持ちながら、患者さまとの関りを非常に大切にしつつ看護に臨んでいる姿勢は印象的である。</p>
関西・近畿	<p>看護学実習については、今後いつ中止になるかわからない状況下での実施となりますので、非常に不安を感じております。</p> <p>中止となった場合は、学内での実習となりますが、実習対象学年以外の通常授業との並行で実施することになるので、かなり教員の負担が大きいようです。</p>
関西・近畿	<p>臨地での実習ができないため、多重課題や臨機応変の対応など実践力の低下が懸念される。</p> <p>臨地での学びができないことについて、学生たちからも不安の声が聞かれており、卒後の教育の充実をお願いしたい。(卒後教育について、連携の強化など必要ではないか)。</p> <p>一方、遠隔や学内での教育を見直し、臨地実習のあり方を考える機会ともなった。</p> <p>遠隔・学内実習となったことにより、通常は購入しない教材購入となった一方で、臨地での日数が減少しているため、全体としての実習委託費は減額となる見込みである。</p>
関西・近畿	<p>コロナの影響で変更が生じた病院では臨地は3日間とし、その3日間は病院の会議室で電子カルテと患者に関する動画、会議室でのカンファレンスでスタッフから不足情報を聞く、残りの7日間は学内での演習という実習になっています。</p>
関西・近畿	<p>今回学内実習へと変更になり、臨地実習での貴重な学びの場の提供はできない状況となったが、学生にとっては平等かつ安定した準備性の高い実習環境を提供することになったのではないかと考えている。また前期オンラインでの授業となったことで、知識、技術の定着が十分に行えない状況にあり、学内に切り替えたことで補完することが可能になった。またコロナ禍で精神的に問題を抱える学生が多く、そのケアも見落とすことなく行うことができている。ただ、学内実習にすることでの教員の教材等の準備や体調不良の学生への対応、学内実習場所の感染に留意した確保と対策の徹底等、実施に伴う心身の負担はかなり大きい。</p>
関西・近畿	<p>附属病院があるため、このような状況でも実習が継続できていると考えます。PCR陽性者が出てもその病棟のみを隔離する方向に変わっているので、ぎりぎりまで実習は継続する方向です。ただ、これから先に実習が継続できなかった時に、実習できた学生とできなかった学生の格差の改善をどうするかが課題であると考えます。</p>
関西・近畿	<p>各領域実習の中で、例えば小児でも実習に行けるグループとクラスターなどの発生により実習できない学生(グループ)が出ており学内実習に変更しているが、そこでの不公平感がある。学内実習でもかなり工夫しているがそれは仕方がないことかなと思います。</p>
関西・近畿	<ul style="list-style-type: none"> ・学内・遠隔授業に変更になった場合、時間をかけて、知識の習得や問題解決(事例展開)にと取り組むことができた。 ・患者・看護師の専門的な関係を構築できるか心配。

調査A <日本私立看護系大学協会>

その他、COVID-19に伴う看護学実習への影響について自由に記載してください。

設置場所	その他（自由記述）
関西・近畿	<ul style="list-style-type: none"> ・前期におけるオンライン学内実習では、教員の疲れが目立った。後期は少しオンライン実習にも慣れ、工夫をしながら行っている。 ・学内実習において、学生にとって臨床現場の臨場感が持てるまでにはいかないことは仕方ないことである。今後、看護教員や実習指導者が、COVID-19後の感染対策も含め実習形態について再考する機会になるとよいと考える。
関西・近畿	<p>学生に不利益を与えないよう、各実習の目標を達成できるよう、隣地との調整や学内実習対応、遠隔実習対応など教員への負担は従来以上であり、無理せざるを得ない状況が多々あった。今後の基礎教育での実習の在り方および免許取得後の新卒看護師等の研修の充実について、再考が必要と考える。</p>
関西・近畿	<p><精神看護学></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼバイタルサイン測定とコミュニケーションで、食事介助や排泄介助などの生活援助は経験できない。 ・病棟以外の場所には行かないことになっているため、患者の作業療法に同行できない。デイケア実習も中止となっているため、精神科特有の治療やリハビリテーションに触れられない。 ・マスクをはずすことがリスクとなるため、13時までの実習とし、帰宅して昼食をとっている。
関西・近畿	<p>・本学では、附属病院での対面実習は配慮されているが、その量・質ともに影響は生じている。本来臨地で学べる内容を学内で補う様々な工夫はしているがリアリティにかける部分も多く、次年度以降のように臨地で補っていきけるのかを実習施設も含め検討が必要である。実際に他大学の状況と比較すると臨地で見学実習のみであっても実習ができていたことは有難いと思うが、COVID-19に伴う現場経験の減少は今後の卒業後に多大な影響を与えると考える。</p>
関西・近畿	<p>実習において見学実習を基本としたことから、看護技術の修得を学内日にロールプレイによって演習を行った。看護技術の修得に対する経験不足や見学においても制限を設けたことで、卒業時の看護技術の到達が懸念される。</p>
関西・近畿	<p>コロナ感染拡大の状況によって今後の実習病院受け入れと受け持ち患者の選択が狭まり、学習の量および質の担保が難しい。また、学内においても実習室を開放し自由に技術練習を行えない状況。特に2月の基礎実習の基礎となる「生活支援技術」「看護治療技術」の科目はすでに今年の夏学期に終了したが、対面授業が3回しかできなかつたため、技術の体験が少ないまま、臨地実習に出ないといけないため、学生も不安が大きく、教員も指導内容に戸惑いがある。受け持つ患者に対しても負担がかからないか心配である。</p>
関西・近畿	<p>実習施設によっては、コロナ感染拡大の影響で急遽コロナ受け入れ指定病院になったり、施設側から感染状況によって実習の受け入れが変わるまたは受け入れ人数が変わるということで、実習開始のギリギリまで調整が続き、学生が卒業できるか等の不安を募らせる要因になっている。また、急な実習時期の変更により、それによって影響される講義の移動があるため、学生のアルバイトなどのシフトが組めず経済的にも困窮する学生が少なくない。加えて、学生の生活態度の自粛、学内で過ごす友人たちとの交流も思うようにできず、新型コロナの感染拡大は学生の精神的、経済的ストレスを大きくしていると考えられる。</p>
中国・四国	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での感染症拡大によって、日程調整が入り、やむを得ず学内実習に切り替わった領域もある。 3年生後期から始まる実習が学内実習に切り替わったことで、実践能力獲得と社会的基礎力に大きく影響すると考える。 ・臨床のイメージができない学生が多くなってきていることから、臨床に向かないことで、さらにイメージができない学生が増加すると考える。 ・在学生に感染者が発生がわかり、2週間後から開始予定だった実習を2週間自粛した。（実習自粛期間2週間、感染発覚から4週間経過した。）そのうち実習受け入れを施設に確認すると年内は受け入れ中止となった。感染者の回復状況、他の学生、教員への影響、クラスターなどの発生もない状況にもかかわらず、実習がストップしたことがとても苦しいし、実習での学びの機会が与えられないことが残念だった。
中国・四国	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習でなければ修得できない、状況に対応して思考する力、患者の日々の変化に対応する看護実践力、看護職や医療スタッフ、患者家族とのコミュニケーション力をどのように修得するのか課題と考えています。 ・学内実習に変更した場合の学習方法の検討や指導の実際については、教員に相当の負担がかかっています。 ・ICTの活用が必要になっているために、教員の対応する力に差が生じていることや財政面も含め、大きな影響があります。
中国・四国	<p>患者を受け持つことが困難な実習があり、さらに見学であっても許可を得られる患者が少ないため、実習目標の到達に不安がある。</p>

調査A <日本私立看護系大学協会>

その他、COVID-19に伴う看護学実習への影響について自由に記載してください。

設置場所	その他（自由記述）
中国・四国	<p>・今年度においては非常勤実習助手の確保が困難である。その理由としてCOVID-19により学内なら良いが病院施設への勤務は難しいという意見が非常勤実習助手のなかにある。そのため、非常勤実習助手が不足傾向にあり、大学教員が授業、学内演習、学内実習、学外実習など業務増になっており、領域を超えて対応している。</p> <p>・学生が実習で使用する主な感染防護用具については、実習施設から、例年にはない物品や数量を準備してくるよう求められる場合もあるが、一部の学外実習が学内実習へと移行していることにより、余剰物品もあるため、トータルとして現時点では対応できている。</p>
中国・四国	<p>実習施設における実習は前期はほぼできない状態でした。後期は一部のみ可能となりましたが、2週間の県外移動の制限もしくは実習中は実習施設の所在地での待機を求められました。県外から通学する学生が数名おり、数日間の実習に対して2週間の県内での待機となり、学生の負担が大きいのが現状です。ホテル代等は半額程度は大学が負担し、なるべく学生の負担が少ないにはしていますが、実習は1つではなく、複数が続くので、学生の精神的な面も含めて心配です。最終学年は仕方ないとしても、低学年において、実習が十分にできず、この先、実習の補填をどこで行うかが問題です。実際問題として、時期をずらして実施することは、近隣の大学や看護学校を施設側が受け入れている以上、不可能に近いことです。</p>
中国・四国	<p>PPE（マスク以外）やアルコール手指消毒薬の持参は実習施設により違う。持参が必要な場合は大学で準備した。</p>
中国・四国	<p>臨地に出向いても、直接ケアができず、離れた位置からの短時間の見学が中心となっているので、患者とその家族への関わり方や、病状のアセスメント能力が十分に獲得できないのではないかと心配である。</p>
中国・四国	<p>学内実習への変更により、臨地での体験や臨床判断の機会が制限される。特に患者、関係スタッフ等とのコミュニケーション、継続的な看護過程の展開の学修については、影響が大きい。</p>
九州・沖縄	<p>成人看護学実習施設の大学病院や医療センターで、PCR検査陰性者のみ受け入れるとの条件が9月から追加され、科大学経費で検査している。今年度は前期に臨地実習がほとんどできなかったために、その実習謝礼金を検査費用に充てているが来年度まで続く場合は、大学予算でも支出が困難な見通しである。すべての看護学生や受入施設が安心して実習できる体制のための安価な検査体制の構築が必要である。</p>
九州・沖縄	<p>経験のない学生にとって模擬患者には限界があり、コミュニケーション、観察技術をはじめ直接臨地指導者による助言等、あらゆる場の経験が出来ないため臨場感に欠ける。そのことにより、基礎的な情報収集や観察の視点など看護実践能力の低下が懸念される。また、多職種によるチーム医療の提供という観点においても認識が薄い。 【その他】本来ならば臨地に出向いている学生が学内実習を余儀なくされ、多学年・多領域が学内実習室を使用している。そのため、空き時間に学生が自主練習を行う場にも制約がある。</p>
九州・沖縄	<p>2) の経費予算の執行額の変化については、学内対面実習およびオンライン実習となったため、通常の執行状況ではない。実習施設の看護部長、病棟師長、指導者などがオンライン実習に参加され、指導をいただき、講義を依頼する、事例提供を依頼するなど、別途予算を計上し執行している。</p>
九州・沖縄	<p>老人保健施設や訪問看護ステーション、障害児（者）福祉施設、保育所等での実習がほとんど受け入れを拒否されている。極力教員が現場に出向き、動画を取ったりしてオンデマンド配信し学生が視聴後に、オンライン（リアルタイム）で現場の看護職者への質疑応答の時間設定をしたりして、学生の学びを担保している。</p> <p>大学病院があるので、疾患を持つ人を対象にした看護学実習は、少しはできている。</p>
九州・沖縄	<p>3-1) の問いについて、消耗品などは基本的には大学で準備することになっているが、特別に患者によって使用するものは実習施設のものを使用する。</p> <p>実習にかかる人件費の変化はないが、実習の変更（施設での実習の中止や再開など）は、教員の授業（実習）内容の再吟味や学生の準備まで、大変な調整が必要であり教員は心身ともに過重労働となり疲労している。</p>
九州・沖縄	<p>前期実習予定の在宅看護論実習と高齢者実習は実習施設から実習を断られ、学内実習に切り替えました。</p>
九州・沖縄	<p>臨床実習、学内での演習形式、Zoomによる遠隔での講義の組み合わせで経過しているが、臨床実習に対してかなり緊張してメンタル面での体調不良を訴える学生数が、例年に比して多いように考える。</p>

調査A <日本私立看護系大学協会>

その他、COVID-19に伴う看護学実習への影響について自由に記載してください。

設置場所	その他（自由記述）
九州・沖縄	<p>2020年2月中旬に「臨地実習を中止」と、予定していた実習病院から連絡を受けた時、一瞬戸惑った。2020年3月の実習計画（2019年度計画）が履行できないことから、どうしたらよいか方策が皆目わからずJANPUの理事長上泉先生へ問い合わせた。早期の段階であったことから、JANPUの理事会で検討して結論を出すためには時間が必要である。直接、文部科学省医学教育課へ問い合わせをするようにと助言をいただいた。すぐ、文部科学省へ問い合わせたところ、厚生労働省と協議を進めている所である。その結果を各大学およびすべての教育機関へ通達すると回答をいただいた。2020年2月28日に届いた通達に基づき、臨地実習の学内実習への代替案を検討した。その時は、教員達の誰も2020年8月予定の「看護過程論実習（2単位）」・9月から翌年2月までの専門領域の実習中止が現実になるとは考えていなかった。その現実を目の当たりにしたのは、7月頃からであった。実習施設から次々に連絡される実習中止の連絡を受け、学内実習に置き換える。しかも、遠隔授業を実施する学内の方針を受け、学内実習もZoom・シミュレーションを活用した遠隔実習を行ってみたものの、専門領域別実習が未経験な学生には、事例を提示してもイメージ化が困難でその反応は臨地実習のリアリティさに欠けた。しかし、その反面学内実習の良い点も見えてきた。目まぐるしく流れのはい臨地実習の中で、そのスピードと変化についていけない初期の学生には、学内でシミュレーションを活用した事例でゆっくりした時間の中で、状況理解をしアセスメントする思考を育成することはできた。</p> <p>また、グループの他の学生の回答や質問を通して、場面の共有化・情報の共有化ができ、共に学修する喜びと理解の深まりを得ることができた。そのような経験をしたのちに、10月中旬から11月末にかけて臨地実習の受け入れが可能になった現在、臨地に出向き学内で学んだことのフィードバックを実施している。それらの成果は、実施終了後の3月でないと明確には出せない。臨地実習指導者・学生・教員の相互評価を総括して明確な結論を出し、次年度の計画へとつなげていきたい。</p>
九州・沖縄	<p>学外実習から学内演習、学外実習の再開等、施設からの要請を受けて対応すべきことが続き、まず、教員が疲弊している。施設での実習が可能な場合でも、実習期間中は、濃厚接触者や陽性者が生じるたびに、勤務時間内外での対応が求められ、日々の緊張感も高い。現状に対する一部の学生や保護者からの不安や不満に対応する必要あり。</p> <p>卒業時までには、補完実習として施設確保を考えているが、その調整が可能かどうか不明。</p> <p>学内演習の教育方法によって、教育効果を上げている例とそうでない例があり、今後、客観評価が必要と思われる。しかし、施設に依存していた実習から、遠隔やシミュレーション演習など、学生の主体的学修を促進する方法を検討する機会にもなっている。悪影響だけではないと感じている。</p>
九州・沖縄	<p>感染防護用具に関しては、開設年次で実習未実施のため「予定」を記入しています。経常経費予算等につきましては回答不能です。</p>